



読字 原田 親

No. 620

2010/11/5

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒113-0044 東京都文京区
西目黒1-1-1 東武ビル3階

日中友好協会
岡山支部
〒700-8266
岡山市東区3-8-30 511
TEL:0861272-3010
郵便番号11所
01250-0-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8011
倉敷市港島中央1-8-1
(宮地方)
TEL/FAX:0860446-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhong.web.infoseek.co.jp>
メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp



日中友好協会創立60周年記念 岡山集会へ参加して

日本語教室 黄艶萍

参加する前に、日中友好協会「はどんな会か」という疑問を抱いていました。

早速資料を調べ、日本中国友好協会は何を指して結成されたのでしょうか、を読みました。

日中友好協会は1950年10月1日に結成されました。結成された背景は大きく二つあります。一つは1945年に日本が戦争に敗北し、国民は反戦と平和を強く願っていたことです。特に中国侵略戦争への反省から中国との友好と平和関係を確立したいという機運が強かったのです。もう一つは、日中両国間に2千年来の政治、経済、文化、人的な往來の長い歴史と伝統があり、日本人の中国人への親近感が他国より一層強いものがあつたのです。

協会の結成趣旨の中で「活動方針」の原則では「われわれの友好運動は政府や国に依存しない自発的な国民運動としてすすめられている」として「われわれが友好の対象とする中国は、広範な中国人民大衆であつて、特定の政党政派に限られるものではない」と明確に述べてい

る。

ちょうどこの時は、尖閣諸島の漁船衝突事件で日中両国の関係が悪くなったところでした。

在日中国人の私は毎日緊張感を高めてニュースを見ていました。日本の友人からも中国に旅行に行く予定だったが止めたほうがいいかとの相談もきました。

このような事情の中9月26日、65名参加者の中の一人として、会場に臨みました。

集会の最初は、日中友好協会本部の矢崎光晴事務局長から「中国関係の現状と課題、そして展望、変化する中国と日中友好運動の役割」と題した記念講演でした。事務局長は、日中両国国民の草の根の交流を大切にしてきた、今後も大切にしていこうと強調しました。次の祝賀会では温かい雰囲気の中、食事をしながら、太極拳、三線、オカリナの演奏などを観賞しました。

会場の中で、事務局長の矢崎光晴さんの「モンゴル踊」は大変に盛り上がりました。円卓の間を行きつ戻りつしながらのとても情熱的な踊りでした。矢崎さんから元戦犯であつたお父さん

に関する話も聞きました。お父さんは戦犯として監禁された中国の管理所内で中国人から優しい待遇をうけたといつも話していたそうです。例えば当時の中国人の食事は一日2食が普通でも高梁しか食べられなかったというのが常でした。しかし、矢崎さんのお父さんを含めた日本人戦犯には一日3食白いご飯が出されたそうです。

お父さんは帰国後、自ら犯した侵略戦争への反省と当時中国人の恩返しのため、管理所で

習った「モンゴル踊」を踊り続けてきたそうです。今回、この踊りを披露された矢崎さんは、そんな父親の思い出を語られ、このモンゴル踊りも父から引き継いだものだと話されました。きっと、矢崎さんの日中友好への願いはこの踊りを通じて皆さんの心に届いたことでしょう。

倉敷支部長の大森さんによる閉会の挨拶も印象的でした。若いころ習った剣道の修行を通して、私の剣道の先生は、剣道の姿勢は近くを見るより遠くを

日中友好と尖閣諸島問題

日本共産党岡山県委員会副委員長・松田準一

先日、日中友好協会創立60周年の祝賀会に参加させていただきました。矢崎光晴事務局長の記念講演もお聞きすることができ、日中関係の現状や日中友好運動の役割を詳しく知る機会となりました。日中関係の歴史の中には、文化大革命や天安門事件など日本社会に大きな否定的影響をもたらした事件や時期もありました。その時にも自主的な意見をたらしめ、日中両国民の草の根からの友好を追求して現在にいたった貴重な歴史も改めて知ることができました。おりしも、この祝賀会は、尖閣諸島問題をめ

ぐり日中両国関係が緊迫するなかで開かれました。祝賀会での意見交流の中で、若い女性の留学生の意見に胸を打たれました。同じ事件についても中国にいた時と日本に来てからと情報や評価が異なること、いろんな出来事を見るときにも複眼で見ることもできるようなったことなど率直な意見に、会場はざわめきで覆われ、少しい間をおいて共感の拍手がわきおこりました。

この機会に、尖閣諸島の問題について少し考えてみたいと思います。尖閣諸島の問題は千島問題や竹島問題とは異なり、歴

見たほうが姿勢が正しくなる」と教えてくれた。日中関係もそれとおりでと思う。「というもので、私もとても大切な観点だと同感しました。

中国の漁船衝突問題をめぐり日本政府は、尖閣諸島は「日本固有の領土」と説明抜きに主張しています。しかし、中国政府が異論を述べ、国際的にも正確に理解されていない状況がある中で、中国にたいしても国際世論にたいしても理を尽くして説明し、正々堂々と主張することが必要です。残念ながら日本の歴代政府は、この点で非常にあいまいな態度に終始してきました。中国側は、日中友好正常化(72年)や平和友好条約(78年)の交渉過程で、尖閣諸島の問題は「棚上げ」という態度をとりました。それに対し、日本側は、領有の正当性を説得的に主張することはありませんでした。

史的にも国際法上も日本の領有がはつきりしている問題です。日本政府は1895年の閣議決定で初めて領有宣言を行いました。その後75年間、中国はもろろどの国からもこれに異を唱えることはありませんでした。ところが1969年、この海域に大量の石油が埋蔵されていることがわかってから、台湾、中国両政府が領有の主張を始めました。

問題解決のためには、日中両政府は事態をエスカレートさせず冷静な言動や対応を行うことが必要です。領有問題の解決のためには、話し合いで平和的に解決することが必要です。それについても、日本共産党は歴代政府を支えてきた諸党とは異なり中国への侵略戦争に反対した党として、中国に対して遠慮せず正論を主張できるのだと誇りに思っています。

中国政府は、尖閣諸島は日清戦争に乗じて日本が不当に奪ったものと主張しています。しかし、日清戦争の戦後処理を決めた下関条約は日本の領有宣言より二ヵ月後のことで不当に奪ったという根拠はありません。しかも下関条約の交渉で問題になったのは台湾とその付属島

中国東北の旅

好天に恵まれ無事終了



「方正」のお墓の前で

が、ここは文章力、表現力のあ
る方に譲って簡単に記します。

第一日目は満蒙開拓団跡
(方正)の訪問、戦後ここで亡く
なられた方の公墓と、残留孤児
たちの養父母の公墓にお詣りを
し、(支部長持参の線香をあげ
ました)献花をしました。

案内のために出てきていただい
た外事弁公署の副主任さんと
昼食をともにしながらいろいろ
お話をしたかったのですが、所
用のため早々に退席されたので
詳しいお話が聞けなかったこと
は残念でした。

第二日目のハルビンでは2班に
分かれ、1班は731部隊跡に、
2班はハルピン市内の散策に出か
けました。

第三日目、前夜ハルピンから
戻った大連のホテルをあとに旅
順に向かい、日露戦争の象徴?
となっている203高地を訪れ

倉敷支部が企画した中国東
北の旅(開拓団跡をたずねて)
は、10月12日から16日に実施
しました。総勢8名とごじんま
りとした旅でしたが、それだけ
に和気あいあいの楽しい旅とな
りました。その上好天気にも恵
まれ幸いの旅でした。



中国学生と交流

旅の第一印象ですが、以前に
はあった機内での新聞サービ
スはなく、飛行機によっては(三社
の機内用)飲み物もお水のみと
いう機もあって、ここも節約を
感じる一面がありました。しか
し機内食は、通常の食事時間帯
に近いのを考慮して?か主食が
麺で出てきたのは嬉しいこと
でした。

さて、旅の中身についてです



旅順の日露監獄棟の一部

その後、これも日露戦争時代の建
物、日露監獄旧跡を見学しま
した。捕らわれ人への非道の仕
打ちがあつた施設、なかでも処
刑絞首刑後に落ちた遺体が
棺桶にすっぽり入るようにつく
りにはビックリしました。

その後、旅順博物館に回りま
したが、時間がずれ込み展示物
(優れた仏像や陶磁器など)を
ゆっくり鑑賞できなかったのは
心残りでした。

最後に、よかつたのは中国人
大学生(日本語科)と短時間
でしたが交流できたことです。

多分ほかの旅行社では出来な
いでしょう。2人の女性でした
が、彼女を含め今の若い中国人
のなかでは、日本や日本企業へ
の憧れが結構強いようですし、
一部の反日的な若者を除いて
は、日本への悪印象は少ないよう
です。日中友好はこういう交流
をどんどん続けることこそが大
事で、草の根の私たちの友好協
力運動が一層大きな役割を果
たすことだとおもいます。

宮地義男

中国語講座

入門クラスで餃子づくり

9月29日、福祉交流プラザ
岡輝で今年4月に開校した、中
国語講座入門クラスの受講生
11人は、馬小菲講師の指導の
もと、餃子づくりに挑戦しまし
た。

麵棒での皮づくり、具を皮に
包む、なかには食材の中国語名
を聴くなどみんなワイワイ言
いながら楽しく作業しました。

出来たてはややほやの餃子を美
味しくいただきましたが教室外で
の交流を深めました。

小林



犬島探検 さいでん日本語教室

10月4日に「さいでん教室」
では生徒3人とお孫さん、講師
3人で岡山市東区にある犬島
を訪れました。

連絡船に乗ることや犬島の
歴史や遺跡を見ることが目的
でした。数年前に行った時は製
錬所跡など自由に歩き回れて
いたので、お昼は海を見ながら
のんびりと食べようとおもって
計画したものです。しかし2年
前にアートプロジェクトとして製
錬所跡が有料の観光施設となっ
ていて、自由に歩き回ることも
お弁当を広げることもできなく
なっていて残念でした。

でしたが、船に揺られながら瀬
戸内の海や島を眺めているとゆ
つたりとした広い心になれた一
日でした。

赤井藤子



前列左から赤井、宇垣さん
後列左から今岡 益田 篠原さん

日本語教室開講 6周年のつどい

中国帰国者の日本語教室は、
中国「残留孤児」訴訟支援の活
動から生まれました。

2004年10月23日、岡山市
高島団地で最初に開講してか
ら6年が経過しました。現在
岡山市では、長岡会場と福祉プ
ラザさいでんで、高島公民館で
各週2回の計6回開かれていま
す。

講師は27人で、受講者は約
20人です。最近では発音・会話を
重視するようになりました。受
講者は、日本での生活になれる
ために一生懸命学習していま
す。

この6年間、日本語教室は楽
しく学べ、交流できる場である
ことを基本に運営してきました。
今後もこの基本を守って進
めていきたいと思っています。

なお、今年の「つどい」は、各教
室から実行委員を選んで企画
を進めています。楽しい「つどい」
になると思います。ぜひご参加
ください。

日時：11月21日(日)

9:30～12:30

場所：高島公民館

会費：無料(昼食が出来ます)

内容：各教室からの出し物が中心

次回の新聞送付作業は
11月11日(木)午後1時半～
民主会館2階で行います。
前回お手伝いくださった方で
す。

和 林内内井垣
竹 竹坪三